

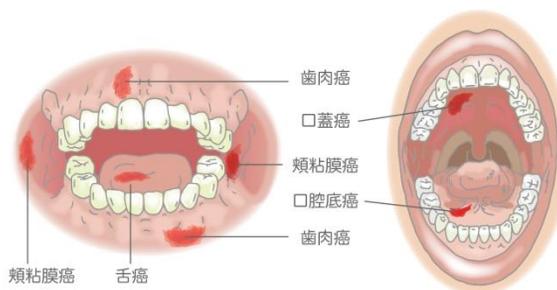


今こそ知りたい口腔がん



昨年メディアの報道などをきっかけに、存在を広く知られるようになった「口腔がん」。なかなか治らない口内炎が不安になり、歯科を受診される方が増えている一方、「がんになるなんてめったにない」と他人事とと思っている方も少なくないようです。口腔がんとはいったいどんながんなのでしょう？

口腔がんは怖い病気ですが、早期発見・早期治療ができれば治癒率の高いがんです。「口腔がん」はお口の中にできるがんの総称です。舌、歯茎、口腔底(舌の下)、頬の粘膜、口蓋(上あご)、あごの骨、くちびるなど、歯以外のどこにでも発生する可能性があります。なかでも多いのは舌にできるがんで、約6割を占めています。口腔がんは初期は痛みがありません。「痛みがない」というのが厄介で、これが早期発見を難しくし、ステージⅣでの状態で来院される方が多いです。



口腔がん早期発見チェックシート

- タバコを1日40本以上吸う。
- 毎日お酒を日本酒換算で3合以上飲む。
- 2週間以上治らない口内炎がある。
- 抜歯した傷が治らない。
- 入れ歯が当たってできた傷が治らない。
- 最近、歯が浮くような感じがする。
- 舌が動かなくなった。
- お口が開きにくくなった。
- くちびるや舌がしびれる。
- 白っぽいできものがある。
- 触って硬いしこりがある。

3つ以上あてはまるなら歯科での検査をおすすめします。

口腔がんの予防には、ご自分でセルフチェックしつつ定期的に歯科で舌やお口の粘膜を診てもらうことをお勧めします。



口内炎ががんになる？

口内炎がすべてがんになるわけではなく、口内炎のうち、細胞の増殖に異常が起きて、ごくまれにがんになる潜在能力を有したものが口腔がんになる可能性があるのです。

潜在能力をもった口内炎ががんになるには必ず「前がん病変」(がんではない状態)を経由します。

口内炎が前がん病変を経てがんになるには、5年以上の長い年月がかかります。前がん病変も必ずがんになるわけでもなく、そのまま状態が変わらないこともあります。